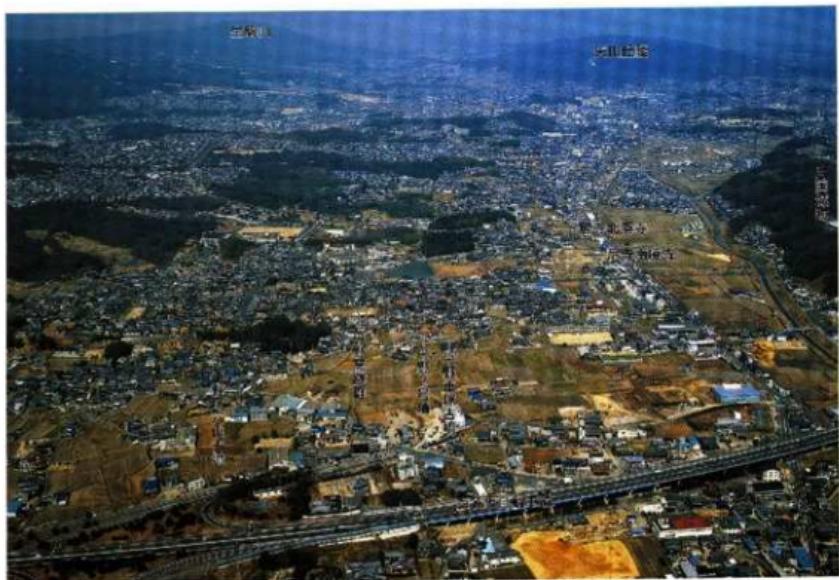


# 香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 13

—平成11年度—

2000

香芝市教育委員会



1. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺上空の航空写真（上が北）



2. 平野2号墳調査区全景航空写真（上空から、上が北）

## 序 文

本市は、奈良県北西部・奈良盆地の西端に位置し、古代の『万葉集』にもうたわれた二上山を背景に市域がひろがっています。

大阪都市圏に近接する地理的条件から、現在63,000人を超える人口を擁するベッドタウンとして発展しており、今もなお人口増加の一途をたどっています。

その反面、古くから自然環境に恵まれ、今まで受け継がれてきた埋蔵文化財をはじめ、各種の文化財が数多く残されています。

なかでも、二上山北麓には二上山が産出するサヌカイトを利用した石器製作遺跡である二上山北麓遺跡群や市北部に所在する飛鳥時代の寺院跡と推定されている尼寺廃寺などは、ひろく学会に知られているところでございます。

このたび、平成11年度国庫補助金事業の一環として実施しました市内遺跡2件の発掘調査結果をとりまとめ、その発掘調査概報を発刊することとなりました。

この発掘調査を実施するにあたりまして、ご協力を賜わりました地元の方々をはじめ、その他関係者の皆さまに深く感謝を申し上げますとともに、この調査概報が多くの方の目にふれ、本市の埋蔵文化財に対する理解を深めていただけますれば幸甚に存じます。

また、今後とも埋蔵文化財行政に邁進していく所存ですので、関係各位のより一層のご指導、ご協力をお願いする次第です。

平成12年3月

香芝市教育委員会

教育長 百 濟 成 之

## 例 言

1. 本書は、奈良県香芝市平野1043番地他に所在する平野2号墳第1次調査1件と香芝市五位堂498-4番地他に所在する狐井遺跡第18次発掘調査1件の合計2件の発掘調査の成果をまとめた概要報告書である。
2. 発掘調査は、平成11年度国庫補助金事業の一環として実施した。  
事業名：市内遺跡発掘調査  
事業者：香芝市  
調査担当：香芝市教育委員会事務局 生涯学習課 香芝市二上山博物館
3. 本書の挿図の座標値は国土座標第VI座標系による。また、標高は海拔高で示している。
4. 発掘調査に関する遺構や遺物の写真・図面等の調査記録一切及び出土遺物は、香芝市二上山博物館（奈良県香芝市藤山1丁目17-17）内で保管している。
5. 現地調査及び出土遺物の検討等の本書作成に関しては、下記の方々より有益な御教示を戴きました。御芳名を記して感謝の言葉にかえさせて頂きます。(50音順。敬称略)  
泉森皎、池田貴之、勝部明生、小泉俊大、木場幸弘、吉村公男、宮原晋一

## 目 次

### 序文

|                          |    |
|--------------------------|----|
| I 国庫補助金事業について .....      | 1  |
| 1 国庫補助金事業の経過 .....       | 1  |
| 2 平成11年度国庫補助金事業の概要 ..... | 1  |
| II 平野2号墳第1次調査 .....      | 3  |
| 1 位置と環境 .....            | 3  |
| 2 調査の経過 .....            | 6  |
| (1) 調査の経緯 .....          | 6  |
| (2) 調査の方法 .....          | 6  |
| 3 調査の概要 .....            | 8  |
| (1) 層序 .....             | 8  |
| (2) 墳丘 .....             | 8  |
| (3) 羨道 .....             | 8  |
| 4 小土遺物 .....             | 13 |
| 5 調査の成果 .....            | 14 |
| III 狐井遺跡第18次調査 .....     | 15 |
| 1 位置と環境 .....            | 15 |
| 2 調査の概要 .....            | 16 |
| 3 調査の成果 .....            | 16 |

## 挿図目次

|   |      |
|---|------|
| 図1 平成11年度国庫補助金事業に伴う発掘調査地位置図(S=1/50,000) |      |
| 図2 平野車塚占墳・平野2号墳周辺の遺跡分布図(S=1/20,000)     | 3    |
| 図3 平野古墳群分布図(S=1/5,000)                  | 4    |
| 図4 古絵図にみる平野1~4号墳(『御陵之絵図より』)             | 5    |
| 図5 宅地造成前の平野車塚古墳・平野2号墳の地形測量図(S=1/2,000)  | 6    |
| 図6 平野2号墳第1次調査発掘調査区位置図(S=1/400)          | 7    |
| 図7 平野2号墳墳丘復元図・調査区・1層断面図(S=1/100)        | 8    |
| 図8 平野2号墳第4調査区羨道平面・立面図(S=1/40)           | 9・10 |
| 図9 平野2号墳第1次調査出土土器実測図(S=1/3)             | 13   |
| 図10 狐井遺跡調査地位置図(S=1/6,000)               | 15   |
| 図11 石鏡実測図                               | 16   |
| 別添図 平野車塚古墳・平野2号墳地形測量図(S=1/200)          |      |

## 表 目 次

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 表1 平成11年度国庫補助金事業に伴う発掘調査・覧 |   |
| 表2 香芝市国庫補助金事業の経過          | 2 |

## 図 版 目 次

- 卷頭図版 1. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺の航空写真（上が北）  
2. 平野2号墳調査区全景航空写真（上空から、上が北）
- 図版1 1. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺上空の航空写真（昭和38年撮影、上が北）  
2. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺上空の航空写真（平成12年撮影、上が北）
- 図版2 1. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真（上が北）  
2. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真近景（上が北）
- 図版3 1. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真（東から）  
2. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真（南から）  
3. 平野車塚古墳墳頂部より平野2号墳・二上山を臨む（北東から）
- 図版4 1. 平野車塚古墳伐採前の状況（南から）  
2. 平野車塚古墳伐採後の状況（南から）  
3. 平野2号墳伐採後の状況（東から）
- 図版5 1. 平野2号墳完掘状況（東から）  
2. 平野2号墳丘バラス検出状況（東から）  
3. 平野2号墳丘バラス検出状況（北東から）
- 図版6 1. 平野2号墳第3調査区墳丘裾部バラス集積箇所検出状況（東から）  
2. 平野2号墳第3調査区墳丘裾部バラス・中世土器検出状況（東から）  
3. 平野2号墳第3調査区墳丘裾部バラス・北壁土層堆積状況（南から）
- 図版7 1. 平野2号墳完掘状況（東から）  
2. 平野2号墳丘裾部盛土の状況（東から）  
3. 平野2号墳丘頂部埴築の状況（東から）
- 図版8 1. 平野2号墳第1調査区南壁土層堆積状況（北東から）  
2. 平野2号墳第1調査区南壁土層堆積状況・墳丘盛土の状況（北東から）  
3. 平野2号墳第2調査区墳丘裾部南壁土層堆積状況（北から）
- 図版9 1. 平野2号墳第3調査区墳丘裾部北壁土層堆積状況（南から）  
2. 平野2号墳第4調査区羨道検出状況（北東から）  
3. 平野2号墳第4調査区羨道検出状況（東から）
- 図版10 1. 平野2号墳第4調査区西壁土層堆積状況（北東から）  
2. 平野2号墳第4調査区羨道左側石検出状況（南西から）  
3. 平野2号墳第4調査区羨道右側上段側石検出状況（南から）
- 図版11 平野2号墳第1次調査出土遺物
- 図版12 1. 狐井遺跡第18次調査調査区全景（西から）  
2. 狐井遺跡第18次調査SK-01土器出土状況（南から）  
3. 狐井遺跡第18次調査北壁地層断面（南西から）

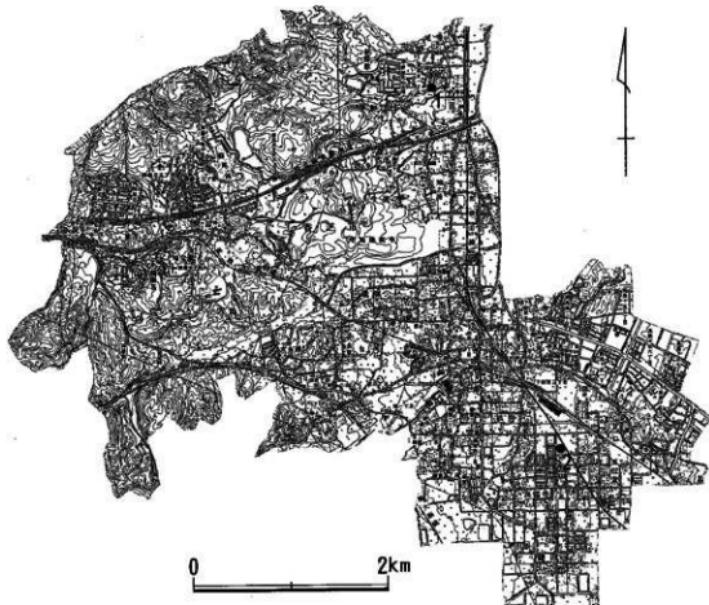


図1 平成11年度国庫補助金事業に伴う発掘調査地位置図(S=1/50,000)

表1 平成11年度国庫補助金事業に伴う発掘調査地一覧

| No. | 遺跡名   | 調査次数 | 調査地番                           | 調査期間                       | 調査面積                |
|-----|-------|------|--------------------------------|----------------------------|---------------------|
| 1   | 平野2号墳 | 第1次  | 平野1043番地                       | 平成11年11月11日～<br>平成12年3月10日 | 100m <sup>2</sup>   |
| 2   | 狐井遺跡  | 第18次 | 五位堂498-4・503-3<br>・504-5・505-3 | 平成11年4月20日～24日             | 19.75m <sup>2</sup> |

## I 国庫補助金事業について

### 1 国庫補助金事業の経過

香芝市では、近年急増する開発行為に対して文化財保護の観点から昭和56年度以来、毎年国庫補助金事業による市内遺跡発掘調査を継続的に実施している（表2）。その目的は、各遺跡の実態を把握し、今後の開発行為に対応するためのデータ収集と自己用住宅建築に対処するためである。

昭和56年度～平成2年度までは旧石器時代を中心とする二上山北麓遺跡群を中心に調査がすすめられ、貴重な成果を得た。そして、平成3年度から平成9年度までは尼寺廃寺（尼寺北廃寺・南廃寺）の寺域の範囲確認調査を実施し、なかでも、平成7年度に尼寺北廃寺で実施した第10次調査では、日本で最大級の塔心礎が検出され、心礎の柱座内から12個の金環や水晶玉4点、ガラス玉3点、刀子1点等の舍利蔵器具を検出するなど多大な成果を得た。<sup>1)</sup>

### 2 平成11年度国庫補助金事業の概要

平成11年度は、個人住宅建築に伴う事前調査として香芝市南部に所在する狐井遺跡の発掘調査（第18次調査）1件をはじめ、遺跡の範囲確認調査として今年度から新たに香芝市北部に所在する平野車塚古墳・平野2号墳の発掘調査1件の合計2件の発掘調査を実施した（図1・表1）。

狐井遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。長らく当遺跡の実態は不明であったが、平成5年度の第8次調査では縄文時代前期末～中期の溝から多量の縄文土器や石器、獸骨等が出<sup>2)</sup>し、縄文時代前期から中期にさかのぼる貴重な集落跡である可能性が強くなった。

当遺跡は周知の遺跡として認知される前に既に遺跡の大半は宅地化されたため、現況では遺跡の中心や範囲等は不明であるが、今年度の調査地は、縄文時代の遺構や遺物が出上する蓋然性は高い地域であり、また、建物基礎埋設によって遺構が破壊される恐れがあることから事前の発掘調査を実施した。

平野車塚古墳（1号墳）及び2号墳は、一辺15mの方墳と径20m前後の円墳と推定されている。両古墳は、消滅した2基の古墳をあわせて7世前半～後半に築造された6基の古墳からなる平野古墳群を形成しており、古墳群の西端には整美な凝灰岩製の切石作りの石棺をもつ終末期古墳として著名な平野塚穴山古墳（国指定史跡）がある。当古墳群は、奈良盆地でも数少ない終末期に築造された古墳群として、また、横穴式石室から横口式石室へと変遷する古墳群の築造史を解明する上できわめて重要な古墳群として認識されている。しかし、昭和46年に始まった宅地造成工事や住宅建築に伴い、両古墳は充分な地形測量調査や発掘調査が行われないまま墳丘の大半が破壊されてしまうという憂き目をたどり、既に両古墳の周囲は宅地化されている。

現在も両古墳を取り巻く環境は厳しく、平野車塚古墳については墳丘の西側の一部や周囲の盛土が徐々に流失・崩壊し、また、長年の酸性雨の影響か？露呈した周囲の石材の劣化が進行しつつある。

表2 香芝市国庫補助金事業の経過

| 年度   | 遺跡名      | 歴数 | 事業主体 | 調査主体     | 調査担当         | 調査期間                 | 調査面積              | 備考                  |
|------|----------|----|------|----------|--------------|----------------------|-------------------|---------------------|
| S.56 | シリ谷Loc.1 | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 56. 6. 29~ 8. 8      | 48m <sup>2</sup>  | ナスカイト採掘坑<br>遺跡の範囲確認 |
|      | 桜ヶ丘Loc.1 | 2  | タ    | タ        | タ            | 57. 2. 25~ 4. 17     | 24m <sup>2</sup>  | 個人住宅場建設             |
|      | 孤井城山古墳   | 1  | タ    | タ        | タ            | 57. 3. 8~ 3. 29      | 117m <sup>2</sup> | 外堀改修工事              |
|      | 田尻跡Loc.2 | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 57. 4. 16~ 5. 8      | 21m <sup>2</sup>  | 張生時代石劍製作<br>遺跡の範囲確認 |
| 57   | 桜ヶ丘Loc.1 | 3  | タ    | タ        | タ            | 57. 8. 9~ 10. 1      | 96m <sup>2</sup>  | 黒曜岩製石器<br>個人住宅建築    |
|      | 孤井城山古墳   | 2  | タ    | タ        | タ            | 57. 12. 18~58. 1. 5  | 33m <sup>2</sup>  | 外堀改修工事              |
| 58   | 桜ヶ丘Loc.1 | 4  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 58. 3. 8~ 6. 5       | 176m <sup>2</sup> | 個人住宅建築              |
|      | 孤井城山古墳   | 3  | タ    | タ        | タ            | 58. 11. 7~ 11. 22    | 42m <sup>2</sup>  | 外堀改修工事              |
| 59   | 鶴峯莊Loc.1 | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 59. 11. 26~60. 1. 11 | 24m <sup>2</sup>  | 遺跡の範囲確認             |
|      | 鶴峯莊Loc.1 | 2  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 60. 6. 14~ 8. 7      | 28m <sup>2</sup>  | ナスカイト採掘坑<br>遺跡の範囲確認 |
| 60   | 孤井城山古墳   | 4  | タ    | タ        | タ            | 60. 11. 5~ 12. 7     | 290m <sup>2</sup> | 外堀改修工事              |
|      | 闇 屋Loc.2 | 1  | タ    | タ        | タ            | 61. 1. 20~ 1. 22     | 8m <sup>2</sup>   | 個人住宅建築              |
| 61   | 鶴峯莊Loc.2 | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 61. 7. 7~ 7. 12      | 10m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 桜ヶ丘Loc.1 | 5  | タ    | タ        | タ            | 61. 10. 23~ 11. 21   | 5m <sup>2</sup>   | 遺跡の範囲確認             |
| 62   | 桜ヶ丘Loc.1 | 6  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 62. 7. 2~ 7. 22      | 42m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
| 63   | 鶴峯莊Loc.3 | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 63. 11. 14~元. 2. 13  | 37m <sup>2</sup>  | 遺跡の範囲確認             |
| H.元  | 鶴峯莊Loc.2 | 2  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 元. 7. 6~ 11. 26      | 211m <sup>2</sup> | 個人住宅建築              |
| 2    | 堂ヶ谷      | 1  | 香芝町  | 香芝町教育委員会 | 香芝町教育委員会     | 2. 9. 10~ 11. 30     | 87m <sup>2</sup>  | 遺跡の範囲確認             |
|      | 風 井      | 4  | タ    | タ        | タ            | 2. 8. 20~ 8. 23      | 28m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
| 3    | 尼寺魔寺(北)  | 1  | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 3. 12. 3~ 4. 2. 10   | 135m <sup>2</sup> | 回廊<br>遺跡の範囲確認       |
|      | 尼寺魔寺(南)  | 2  | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 4. 11. 3~ 5. 1. 9    | 300m <sup>2</sup> | 獨立社建物・井戸<br>遺跡の範囲確認 |
| 4    | 藤ノ木丁     | 5  | タ    | タ        | タ            | 5. 3. 5              | 12m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 桜ヶ丘Loc.4 | 1  | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 5. 8. 11~ 8. 12      | 20m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 藤 山      | 4  | タ    | タ        | タ            | 5. 9. 16~ 9. 25      | 60m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
| 5    | 藤ノ木丁     | 8  | タ    | タ        | タ            | 5. 10. 31~ 11. 9     | 60m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 尼寺魔寺(北)  | 4  | タ    | タ        | タ            | 5. 11. 26~ 6. 3. 4   | 126m <sup>2</sup> | 瓦溜<br>遺跡の範囲確認       |
|      | 孤 井      | 10 | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 6. 10. 17~ 10. 18    | 30m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 闇 屋Loc.2 | 2  | タ    | タ        | タ            | 6. 10. 19~ 10. 26    | 32m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 尼寺魔寺(北)  | 8  | タ    | タ        | タ            | 6. 11. 16~ 7. 3. 14  | 214m <sup>2</sup> | 遺跡の範囲確認             |
| 7    | 尼寺魔寺(南)  | 9  | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 7. 6. 14~ 6. 23      | 56m <sup>2</sup>  | 自己用駐車場建築            |
|      | 尼寺魔寺(北)  | 10 | タ    | タ        | タ            | 8. 1. 30~ 3. 28      | 109m <sup>2</sup> | 塔基塗<br>遺跡の範囲確認      |
|      | 尼寺魔寺(南)  | 11 | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 8. 6. 25~ 6. 28      | 18m <sup>2</sup>  | 自己用駐車場建築            |
|      | 闇 屋Loc.2 | 3  | タ    | タ        | タ            | 8. 9. 6              | 10m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 桜ヶ丘Loc.1 | 8  | タ    | タ        | タ            | 8. 10. 12            | 5m <sup>2</sup>   | 個人住宅建築              |
| 8    | 尼寺魔寺(北)  | 12 | タ    | タ        | タ            | 8. 10. 15~ 9. 3. 26  | 170m <sup>2</sup> | 伽藍配置確認<br>遺跡の範囲確認   |
|      | 尼寺魔寺(南)  | 13 | タ    | タ        | タ            | 9. 1. 24~ 1. 25      | 24m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 孤 井      | 15 | タ    | タ        | タ            | 9. 1. 27~ 1. 28      | 7.5m <sup>2</sup> | 個人住宅建築              |
| 9    | 尼寺魔寺(北)  | 14 | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 9. 11. 4~10. 3. 26   | 310m <sup>2</sup> | 北・東面回廊<br>遺跡の範囲確認   |
| 10   | 桜ヶ丘Loc.1 | 10 | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 10. 5. 12~ 9. 17     | 104m <sup>2</sup> | 個人住宅建築              |
|      | 八王子古墳    | 1  | タ    | タ        | タ            | 10. 5. 19~ 5. 20     | 32m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
| 11   | 孤井遺跡     | 18 | 香芝市  | 香芝市教育委員会 | 香芝市教育委員会     | 11. 4. 20~ 4. 24     | 19m <sup>2</sup>  | 個人住宅建築              |
|      | 平野 2号墳   | 1  | タ    | タ        | タ            | 11. 11. 11~ 3. 10    | 100m <sup>2</sup> | 遺跡の範囲確認             |

## II 平野2号墳第1次調査

### 1 位置と環境

平野車塚古墳（1号墳）・平野2号墳は、香芝市北部の香芝市平野1197番地に所在する。古墳は、明神山（標高274m）の北西から南東へ緩やかに派生する標高60m前後の低丘陵上に立地しており、両古墳は約20mの間隔をおいて丘陵東側の丘陵末端部に平野車塚古墳が、やや高い西側に平野2号墳が築造されている（図2・3）。

両古墳の西方には平野坂穴山古墳（国指定史跡）や平野1～4号墳等の7世紀代を中心とする終末期に築造された6つの古墳からなる平野古墳群が分布するのを始め、北西約100mには6世紀後半から7世紀後半にかけて須恵器や寺院等の瓦を焼成したと推定される地下式の有段登窯を有する平野窯跡群が所在する。また、北東約200mには7世紀後半の創建が考えられる尼寺南廃寺や尼寺北廃寺が所在しており、一説には平野古墳群と平野窯跡群、尼寺廃寺の3者はその盛衰に密接な関係があると考えられている。<sup>3)</sup>

両古墳は、昭和46年に始まった白鳳台土地地区画整理事業に伴う土地造成工事や住宅建築に伴い充分な地形測量調査や発掘調査が行われないまま墳丘の大半が破壊・削平されており、とくに平野車塚古墳については墳丘南側の漢道付近や墳丘西側の盛土の一部が土砂採集によって流失するなど損傷が著しい。<sup>4)</sup>



図2 平野車塚古墳・平野2号墳周辺の遺跡分布図 (S=1/20,000)

### 【平野車塚古墳（平野1号墳）】

平野古墳群の中でも最も東側の丘陵の東端部に構築された古墳である。三方は既に宅地化しており、南側の狭道部付近や墳丘の西側の一部が土砂採集によって削平されているため詳細は不明であるが、一辺20m、高さ3.5mの方墳と推定されている。主体部は南方に開口した横穴式石室で、方位は西へ5度振っている。横穴式石室は、墳丘の中心からやや南側に築かれており、全長（残存長）9.2m、玄室幅2.8m、長さ3.5m、現在の堆積土床面からの高さは2m、左右の袖部の長さは0.5mを測る。玄室は、主として比較的面の整った花崗岩の巨石を2段積にして構築しており、2石目で内側へ緩やかに持ち送りを行っている。天井には2枚の巨石を架構しており、側石の隙間に小石を詰めている。狭道部は面の整った花崗岩の巨石を1列に4石並べ、天井には2枚の巨石を架構しており、狭道幅1.8m、高さ1.8mを測る。

とくに玄室の平面規格は高麗尺の長さ10尺×幅8尺に設計して構築されたことが想定されており、また、石室の平面形態が正方形に近いことや奥壁・玄室・狭道の側壁の石積技法から7世紀前半に築造された古墳と考えられている。<sup>5)</sup>

### 【平野2号墳】

平野古墳群の東側の丘陵南斜面、平野車塚古墳（平野1号墳）の西方約36mに築かれた古墳である。現況での規模は直径20m、高さ3mの円墳と推定されている。江戸時代末期の「御陵之絵図」では隣接する平野車塚古墳とほぼ同規模の古墳として描かれており（図4）、横穴式石室の石材とみられるものが描かれていることから埋葬施設は横穴式石室と推定されるが、現況では横穴式石室や狭道の石材は地表面には露呈しておらず、古墳の規模や玄室の位置・主軸等は全く不明である。



図3 平野古墳群分布図 (S=1/5,000)

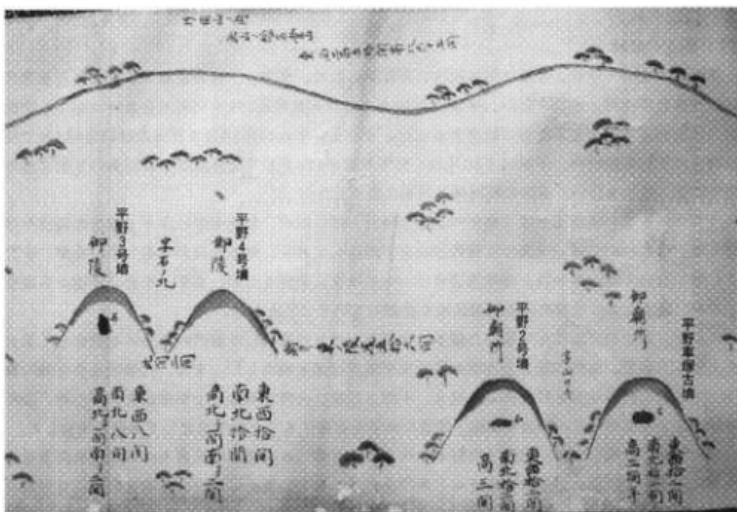


図4 古絵図にみる平野1～4号墳（『御陵之絵図』より）

#### 【平野3号墳】

杵築神社の北側に所在する古墳で、平野塚穴山古墳と同様の横口式石槨を持つ古墳と推定されている。江戸時代には武烈天皇陵に治定され、地元に残る江戸時代末期の『御陵之絵図』には2間の間隔を置いて円墳2基が描かれている（図4）。この2基の古墳うちの西側が平野3号墳と推定され、その規模は「東西八間、南北八間、高北ニテ一間南ニテ二間」と記されている。

#### 【平野4号墳】

杵築神社の北側に平野3号墳と隣接して築かれた古墳で、「御陵之絵図」では平野3号墳の東側の墳丘として描かれている。江戸時代末期の『御陵之絵図』に「東西拾間、南北拾間、高北ニテ一間南ニテ二間」と記されている（図4）。現在では既に破壊され、消滅しているが、破壊時に散乱していた花崗岩から埋葬施設は横穴式石室と考えられている。

#### 【平野塚穴山古墳】

平野古墳群の中でも最も西側に位置する丘陵南斜面に築かれた一辺18m、高さ4mの方墳である。埋葬施設は整美な凝灰岩の切石を組合わせて玄室と羨道を構築した一種の横口式石槨をもつもので、その石室構造について百濟扶余陵山里東古墳群との関係が考察されている。石槨は1単位29.7cm前後の造営尺（齊尺）が使用されており、唐尺の使用から7世紀後半～末の築造年代が考えられている。昭和47年の乱掘の事後処置として実施された緊急の発掘調査では、石槨内から金環1点や中空玉片1点、銅鏡と推定される破片が出土しており、散乱していた漆棺片から石槨内に夾紵棺が納められていたことが判明している。<sup>7)</sup>

## 2 調査の経緯

### (1) 調査の経緯

平野車塚古墳・平野2号墳は国有地内に所在するため、まず、土地を管理する大蔵省近畿財務局奈良財務事務所と協議を行い、平成11年10月1日付香教博第172号で同国有地内における発掘調査に係わる発掘調査承認願の提出を行った。その後、平成11年10月8日付奈財管第441号で発掘調査の承認を得た後、平成11年10月29日付香教博第190号で文化財保護法第98条の2第1項の規定による通知を行い、遺跡の範囲確認調査に着手した。

当初は両古墳の墳頂部や墳丘裾部の調査を検討していたが、発掘調査に伴う土置場の問題や平野車塚古墳については、現況でも横穴室石室が開口しており、埋葬施設が判明しているが、平野2号墳については古墳か否か埋葬施設等については全く不明なため、まず、平野2号墳から調査を進め、状況によって順次調査対象地域を拡張していくこととした。

調査は、調査地全面に生い茂った雑木の伐採後、墳丘の東側に3箇所の調査区を設定して調査を実施した結果、弧状に延びる古墳の墳丘及び墳丘裾部を検出した。また、古墳墳丘の南側の調査区で狭道の左右側石を検出するに至り、平野2号墳は古墳であることが確認されたため、今年度は平野2号墳の墳丘の形状や規模・築造時期等を把握することを主眼として調査を実施した。

なお、平野車塚古墳は、現況で墳丘が流失している墳丘西側での墳丘盛土の版築の状況を確認するに止め、今年度は調査は実施せず、次年度以降の調査に備えて平野2号墳と同様に地形測量図 ( $S=1/100$ )を作成した。

現地調査は平成11年11月11日に開始し、平成12年3月10日に終了した。平野2号墳発掘調査に伴う実働日数は72日間であった。

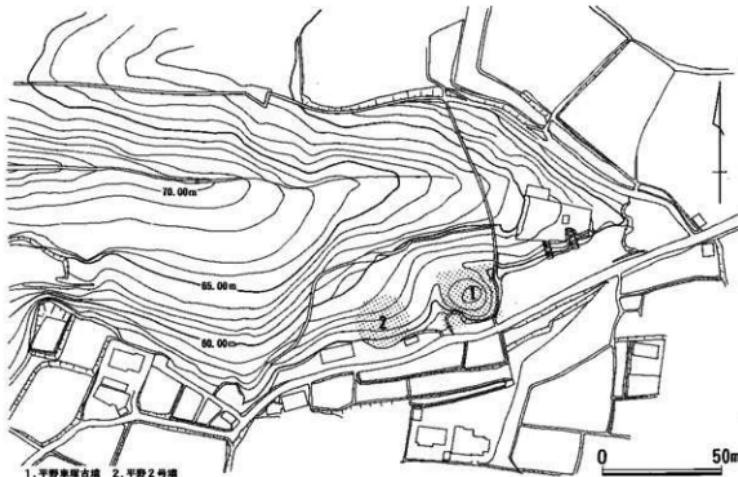


図5 宅地造成前の平野車塚古墳・平野2号墳の地形測量図 ( $S=1/2,000$ )

## (2) 調査の方法(図5・6)

上述したとおり、平野車塚古墳・平野2号墳付近一帯は昭和46年の宅地造成工事に伴い充分な地形測量調査や発掘調査がなされないまま大規模な地形の改変を受けている。

昭和46年前後に作成された宅地造成前の付近一帯の測量図をみると(図5)、古墳の測量を主眼として作成された地形測量図ではないにもかかわらず、平野車塚古墳については古墳墳丘背面の掘り割りの痕跡が明瞭に遺存していることがわかる。一方、平野2号墳については墳丘背面の掘削の痕跡はおろか、古墳状の隆起箇所等はこの地形測量図には全く現れていない。

それ以前の両古墳をとりまく周辺の詳細な環境については全く不明であるが、江戸時代の文化年間に描かれた江戸時代の絵図を見る限りでは、両古墳の南方を東西に貫く道路敷設の際に墳丘南側の築道部の一部が破壊されたものと考えられる。

平野2号墳は、墳丘の北側や南側、西側は宅地造成や住宅建築に伴い原形が著しく削平・造成されている。とくに宅地造成に伴う土木工事の際に古墳墳丘南側と西側が削平されており、法面の勾配が急で、調査により近接する民家に土砂の落石や崩壊等を及ぼす危険性があった。

このため、古墳の西側付近での調査は断念し、唯一調査が可能な古墳墳丘の東側に第1調査区( $1.5\text{m} \times 22\text{m}$ )、第2調査区( $3.2\text{m} \times 8\text{m}$ )、第3調査区( $2\text{m} \times 9\text{m}$ )の東西方向の調査区を合計3箇所(第1・2・3調査区)設定して古墳墳丘の形状を把握することを主眼として発掘調査を実施した(図6)。また、古墳の築道部が推定される墳丘南側も民家が近接しており、調査は困難を極めたが土砂の崩壊を防止するための板橋を設置後、 $2.5\text{m} \times 4\text{m}$ の調査区を1箇所(第4調査区)設定して古墳の築道部の検出を主眼として人力による発掘調査を実施した。

±置場の問題から縮小した調査区も含め調査総面積は $100\text{m}^2$ に及んだ。

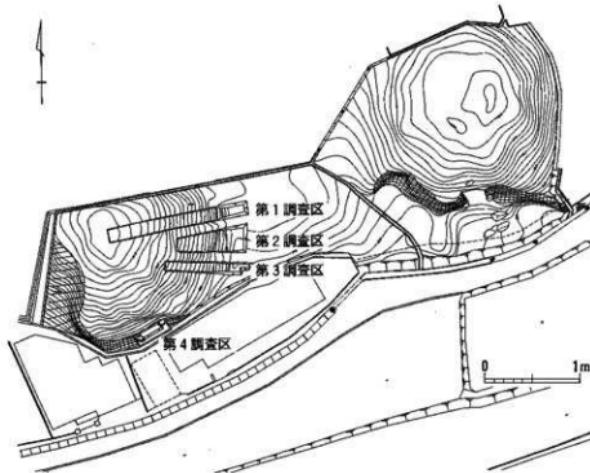


図6 平野2号墳第1次調査発掘調査区位置図(S=1/400)

### 3 調査の概要

#### (1) 層序 (図7、図版6-3、図版7-2・3、図版8-1~3、図版9-1)

調査区の層序は、墳丘の堆積土層と墳丘を形成する盛土層の大別して2つの層域に分離される。付近一帯の地山は⑮層（明褐色砂質土層）で、この⑮層の上面に⑯層（茶褐色砂質土層）と⑰層（黄褐色砂質土層）、⑯層（灰褐色砂質土層）が堆積しており、古墳の盛土を形成している。

墳丘の堆積土層は、墳頂部では表土直下約10cmで墳丘の盛土層（版築土層）の⑮層となるが、墳丘裾部では予想以上に後世の客土層等が厚く堆積しており、表土の①層（暗灰色砂質土層）から墳丘裾部の付近一帯の基盤層である⑮層（明褐色砂質土層）までの深さは第3調査区で1.2m、第1調査区では1.7mを測る（図7、図版6-3、図版8-1、図版9-1）。

このうち②層（黄色砂質土層）・③層（褐色砂質土層）・④層（暗褐色砂質土層）は、近年の宅地造成に伴って丘陵の上方から流入した客土層で6世紀後半の須恵器片等を少量包含している。

墳丘中位に堆積する⑨層（暗灰褐色砂質土層）には、第1調査区から第3調査区にかけて5cm前後の小石が弧状に分布しており、また、第2・3調査区の墳丘裾部の⑩層上面でバラスの集積箇所を検出したため、このバラスと墳丘との関係を探るためにバラスの分布する層域での検出作業を行った（図版6-1～3）。バラスは第1調査区では散在的であったが、とくに第3調査区の墳丘裾部に多く集積しており、バラス層中から出土した瓦質土器や瓦器純等の中世土器から墳丘とは無関係であることが判明したため、写真撮影及び記録図面の作成後、このバラスを除去し、本来の墳丘裾部の⑬・⑭層上面で墳丘裾部の検出作業に努めた。

#### (2) 墳丘 (図7、別添図、図版7-1～3、図版8-2)

古墳墳丘部の東西、あるいは、南北のそれぞれ対称地に調査区を設定することができず、墳丘の東側のみの限られた箇所での調査ではあったが、墳丘部に設定した第1・2・3調査区での調査により、平野2号墳は復元推定直径26m前後の円墳であることが判明した（図7）。

墳丘裾部が予想以上に深く埋没しており、第1調査区の墳丘裾部検出面から墳頂部の比高差、墳丘の高さは6.5mを測る。第1調査区から第3調査区の墳丘裾部は、ほぼ水平に整形されており、古墳造営にあたって大規模な地形の改変を行っていたことが推測される。

当調査は、開発に伴う調査ではないため、墳丘箇所での掘削範囲は最小限度に止めたが、各調査区で設けた断ち割り箇所での土層断面観察の結果、古墳墳丘の構築方法は、地山の⑮層（明褐色砂質土層）を整形した後、層厚約1mにわたって⑯層（茶褐色砂質土層）を整地土層として敷き詰め、その上に層厚約4mにわたって⑰層（黄褐色砂質土層）を版築技法により築き固めて墳丘が構築されていることが推定される（図版7-2、図版8-2）。この⑰層の版築土は、厚さ約10cm前後の赤褐色粘質土層と厚さ約2cm前後の黄色砂質土層（微砂～細砂層）の2層の互層で形成されており、やや保溼性のある赤褐色粘質土層が黄色砂質土層に挟まれるようにして硬く締めて築き固められている（図7、図版7-3）。

⑯層（黄褐色砂質土層）上面に堆積する⑯層（灰褐色砂質土層）、⑰層（灰褐色砂質土層）、⑯層（明灰褐色砂質土層）については流入土とも考えられるが、層厚約50～90cmにわたって厚く固く締まって堆積していることや保溼性の強い粘質気味の单一の土層で形成されていること、また、第1～3調査区の⑯～⑰層中からは、古墳築造時期以降の古代・中世の土器等が1点も出土していないことから二次的な流入土とは考え難く、現段階では盛土の一部と解釈している。

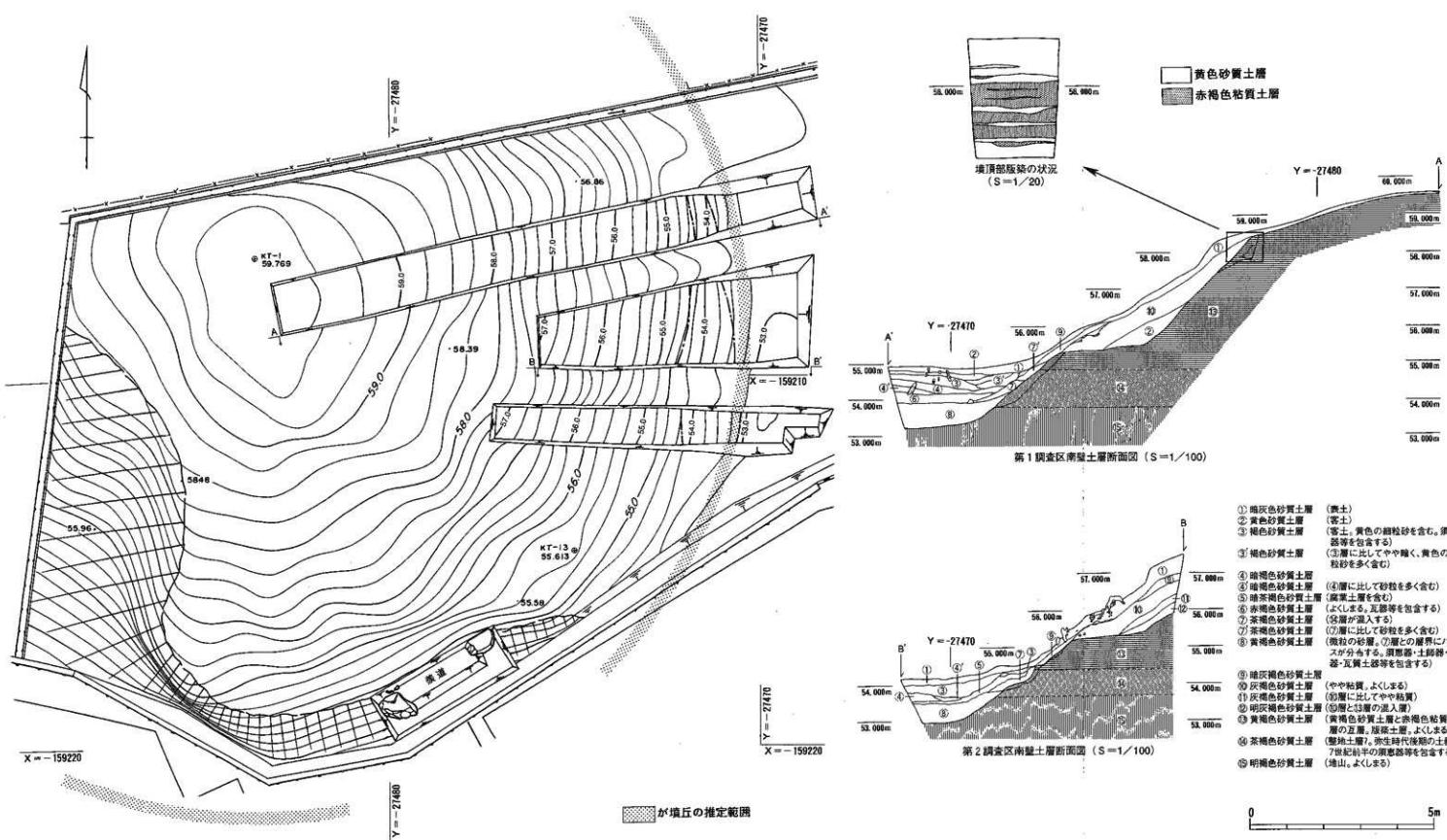


図7 平野2号填填丘復元調査区土層断面図 (S=1/100)

### (3) 羨道(図8、図版9-2・3、図版10-1~3)

墳丘南側に設定した第4調査区では横穴式石室に伴う羨道を検出した。羨道の天上石は抜き取られており、左右の側石のみが遺存していた。左右の側石の材質は花崗岩で、羨道左右側石の幅(内側)は220cm、高さは150cmを測る。左側石は高さ130cm、幅65~80cmの巨石1枚を置き、右側石は上段は高さ67cm、幅75cmの石と下段は高さ60cm、幅70cm前後の石を2段に積み上げており、上下段の隙間に小石を詰めている。左側石は南側が欠損しており、右側石は南側の下段の石が抜き取られている。

玄室の位置は未確認であるため、詳細な玄室の主軸・方位は不明であるが、墳丘の地形測量図と検出した羨道の配列状況を見る限りでは約7度前後西に振っているものと思われる。

隣接する平野車塚古墳の規模と比較すると、墳丘の規模や形状はやや異なるものの、平野車塚古墳の羨道の左右側石の幅は180cm、高さ180cmであるから、平野2号墳の羨道の規模と大差はない、また、岩質の類似した同種の花崗岩が使用されていることなど比較的両古墳の共通性が多く見受けられる。

堆積土中には、古墳時代の遺物としては、TK-209型式期の須恵器片壺身や杯蓋・甕の破片数点や埴輪片1点等が出土しているが、大半は14世紀頃の中世土器で、また、右側石の下段石の抜き取り穴からは中世の土器片が多数出土していることから、14世紀頃に羨道の石材を取り出すなど大規模な改変を受けたことが推定される。

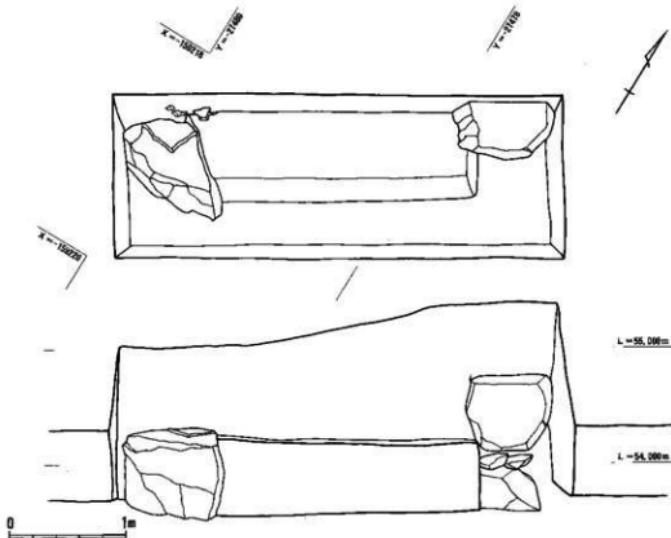


図8 平野2号墳第4調査区羨道平面・立面図(S=1/40)

#### 4 出土遺物

各調査区の堆積土層中からは6世紀中頃～14世紀にかけての須恵器や土師器、瓦質土器等の土器が出土している。全体的に墳頂部や墳丘斜面の堆積土層中からは少なく、第4調査区で検出した狭道部の堆積土層や第1～3調査区の古墳墳丘裾部からは比較的多くの土器が出土している。このうち、墳丘盛土内と狭道部、墳丘裾部堆積土層内の各箇所から出土した土器のうち、図示可能な遺物を概観することとする（図9、図版11）。

##### 【墳丘盛土内出土遺物】

1は、須恵器壺蓋である。口径11.1cm、器高3.2cmを測る。口縁部は内外面クロナデ、天井部はヘラ切り後未調製で、胎土に砂粒が多く含む。

2は、須恵器壺身である。復元口径11.0cm、残存高3.3cmを測る。口縁部は内外面クロナデ、胎土は精良で青灰色を呈する。1・2とも土器の形態からTK-209型式期に比定される。

3は、須恵器壺身である。復元口径10.3cm、残存高2.3cmを測る。焼成が弱い黄褐色の土師質を呈し、胎土に砂粒が多く含む。摩滅のため調整は不明である。

6は、須恵器壺蓋の口縁部の破片である。細片であるが、出土した須恵器の中では最も時期が古く、口縁部の形態からMT-47型式期に比定される。⑩層（灰褐色砂質土層）から出土した。

7・8は、弥生時代後期に属するV様式系統の甕・鉢の底部と思われる。

7は、底部径4.2cmを測る。褐色を呈し、底部内面にハケ調整の痕跡がみられる。

8は、有孔鉢の底部と思われる。底部径4cmを測り、底部に直径0.6cmの穿孔を施す。

1・2・3は、墳丘築造に伴う整地土層と考えられる⑩層（茶褐色砂質土層）から出土しており、下限を示す土器から7世紀前半の築造時期が考えられる。

##### 【狭道部出土遺物】

4は、須恵器壺身である。復元口径10.2cm、復元器高3cmを測る。青灰色を呈する精良品で、狭道部右側石下段側石の抜き取り穴から出土している。

5は、埴輪の胴部の破片である。器厚は1cmで、高さ1cmの突帯をめぐらす。褐色を呈し、内面にはかすかに縦位のハケの痕跡を止める。円筒埴輪軸年のなかでも末期の小形品と考えられる。狭道部内の堆積土中から出土しているが、当古墳に伴うものか否かは不明であり、近隣に該期の埴輪をもつ占墳が存在した可能性も考えられる。

##### 【墳丘裾部堆積土層内出土遺物】

9は、須恵器壺の底部と推定される。底部径7.8cmを測る。底部外面には自然釉と砂粒が溶着して付着している。このような資料は、通常、窯跡や窯跡付近でしかみられない遺物であり、北方の丘陵に所在する平野窯跡で焼成されたものと考えられる。このほか、同窯跡との関係を推測させる遺物として奈良時代の須恵質の軒平瓦の破片1点がある。

10・11は、瓦質土器の底部である。10は、底部径11.6cmを測る。11は、沼鉢の底部で復元底部径9.6cmを測る。底部内面に5条の刻線を施す。

12～14は、土師器羽釜の口縁部である。12は、復元口径20.8cmを測る。口縁部を内傾・屈曲させて成形した施口型羽釜に該当する。外面に焼が付着する。

13は、復元口径30.6cmを測る。口縁部は外反し、端部を内側へ折り返して成形される。

14は、復元口径30cmを測る。胴部外面に短い突帯を付す。

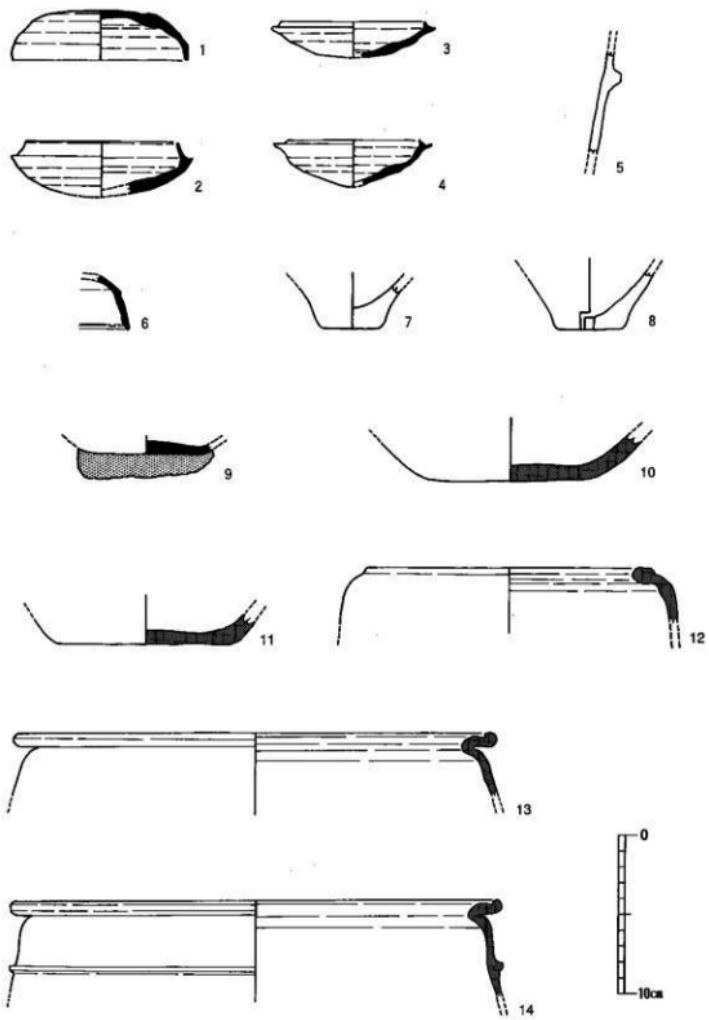


図9 平野2号墳第1次調査出土土器実測図 (S=1/3)

## 5 調査の成果

制約された面積での調査ではあったが、調査の結果、平野2号墳は、復元推定直径26m、高さ6.5m前後の円墳であること、また、内部主体は羨道の左右側石の検出により横穴式石室であることがほぼ確実となった。なかでも、古墳墳丘部から墳頂部は版築技法により構築されるなどいわゆる終末期に属する墳丘の構築方法の一端を把握することができた意義は大きい。

内部施設としては、墳丘南側で羨道を検出したものの、羨道の天上石は抜き取られており、羨道の堆積土層中や側石を抜き取った痕跡を示す層域から12~14世紀前後の中世土器が多数出土していることから、中世に羨道の天上石や側石を抜き取るなど大規模な改変が行われていたことが判明した。

したがって、現段階では当古墳は未盗掘である可能性は低く、また、北方の羨道や羨道に接続する石室がどれだけ遺存しているか否かは不明であるが、墳頂部の土砂の陥没状況からみても横穴式石室の石室材は持ち出されている可能性は低く、石室の大半はこの羨道の北側に遺存しているものと推定される。

今年度は主体部の横穴式石室内部の調査には至らなかったため、明確な古墳の築造時期は不明であるが、墳丘盛土層中からは下限を示す土器として7世紀前半の須恵器片が出土していることから、あえて古墳の築造年代を考えるとするならば、従来からの予想通り、7世紀前半の築造年代が考えられる。

次年度以降は、横穴式石室内部の調査を進め、横穴式石室の構造や石棺の有無、平野2号墳の築造時期等の解明に努めたい。

## 文 献

- 1) 香芝市教育委員会編 1998 「尼寺北廢寺（尼寺廃寺第14次調査）」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報9」香芝市教育委員会
- 2) 香芝市教育委員会編 1994 「3 狐井遺跡第8・9次調査」「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2」香芝市教育委員会
- 3) 千賀久 1983 「北島城郡香芝町平野窟跡群発掘調査概報」「奈良県遺跡調査概報」奈良県教育委員会
- 4) 泉森咲 1976 「古墳時代」「香芝町史」香芝町役場
- 泉森咲 1984 「竜田御坊山古墳付平野塚穴山古墳」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第32冊 奈良県教育委員会
- 泉森咲 1999 「六 平野塚穴山古墳と斑鳩文化」「近畿の古墳文化」学生社
- 5) 前掲註4
- 6) 『御陵之絵図』 作者不詳
- 7) 前掲註4

### III 狐井遺跡第18次調査

#### 1 位置と環境

狐井遺跡は、奈良県香芝市狐井および立福寺から五位堂にかけてひろがる縄文時代～平安時代にかけての遺跡である。なかでも、縄文時代がその中心である（図10）。

本遺跡は、1936年に樋口清之氏によって『大和志』第3巻第11号へ報告されたことにより学界へ知られるようになった。<sup>1)</sup>当初は遺跡推定範囲の北部に所在する改正池内の池畔を中心に縄文時代晩期を主とした縄文時代後期から弥生時代にわたる土器および石器が採集されていた。散布状況として、<sup>2)</sup>池畔の西南側からは主として弥生土器が、東・北側からは縄文土器が検出されるという指摘もある。

発掘調査は1985年度の第1次調査を皮切りに香芝市教育委員会（1991年度以前は香芝町教育委員会）が住宅地の造成工事および住宅建築などに伴って随時実施してきた。第1次調査では縄文時代中期初頭の鷹島式土器が、<sup>3)</sup>1993年度の第8次調査では縄文時代前期の北白川下層式土器が石器・獸骨とともに多数出土した。



図10 狐井遺跡調査位置図 (S=1/6,000)

\*No.は調査次数を示す。

## 2 調査の概要

今回の発掘調査は、自己用専用住宅建築のため平成10年10月20日づけで発掘届出書が提出されたことに始まる。本教育委員会は翌年1月26日づけで届出書を奈良県教育委員会へ副申し、同年2月23日づけで「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について」の通知があった。そして、同年4月19日づけで文化財保護法第98条の2第1項の規定による通知をおこなった。事業者との協議により現地調査は4月20日に開始し、同年4月24日に終了した。実働日数は4日間である。

調査区は、まず開発対象範囲 ( $165.45\text{m}^2$ ) の北部において幅2m、延長7mの東西に長いトレーニングを設定した。

調査は、表土の畑耕作土（厚さ20~30cm）を除去すると基盤の黄褐色~赤褐色系の粘質土があらわれ、その上面において、土坑2基、ピット2基、溝2条を検出した。調査区の東側で検出した溝は幅40~50cm、深度10~15cmを測り、断面形状は皿状を呈する。直線的に南北走行を示し、軟質の黒褐色土系の埋土から、2条とも現代の畑の耕作に伴う溝と考えられる。溝には新旧関係があり、東側の溝が西側の溝より新しい。なお、南へ50cmトレーニングを拡張したところ、2条の溝はさらに南へ延長することを確認した。ピットはサヌカイト片や土器細片をわずかに含むが、あまりにも小規模のため木根の痕跡である可能性も否定はできない。

調査区の西側で検出した土坑は、長径約1mほどの不整形円形を呈し、深度は約15cmである。ほぼ中央に1個体の縄文土器（北白川下層式）が押し潰されたような状態で出土した。もう1つの土坑は調査区北東隅において1/4が検出された。上部に現代の擾乱坑が重なるようにあり、トレーニング北半部（幅1m、延長7m）の深掘り調査において確認した。土器細片を含む。

なお、開発対象範囲の南側において幅1m、長さ2mおよび3mの2つのトレーニングを任意に設定した。2m<sup>2</sup>の調査区からは遺構、遺物は皆無であったが、3m<sup>2</sup>の調査区では幅50~60cm、深度約15cmの溝を検出した。その延長は北側調査区の東側の溝につながると推定される（現代の耕作溝）。そこはか、無遺物のピットを2基検出し、うち1基は焼土を含む。

## 3 調査の成果

以上の調査（開発面積  $165.45\text{m}^2$  に対し調査面積  $19.75\text{m}^2$  で、約11.9%）の結果、基盤層上面において重機のキャビラの痕跡を確認しており、住宅地造成時においてもとの遺構検出面はすでに削平を受けているようである。それでも、1個体の縄文土器（口縁部、底部は欠落）を含む土坑などが検出され、本来はより多くの遺構が存在した可能性が予想される。

本調査地点は1993年度の第8次調査で推定された微高地内に位置しており、今後周辺において深度が深い土坑や住居跡などが検出される蓋然性は高い。

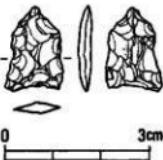


図11 石鏃（ピット内出土）

## 文献

- 1) 横山清之 1936 「新発見の縄文土器出土遺跡—大和下田村狐井遺跡—」『大和志』第3巻第11号。
- 2) 小泉俊夫 1976 「先史時代」『香芝町史』香芝町役場。
- 3) 香芝市教育委員会 1994 「香芝市埋蔵文化財発掘調査概報2」。

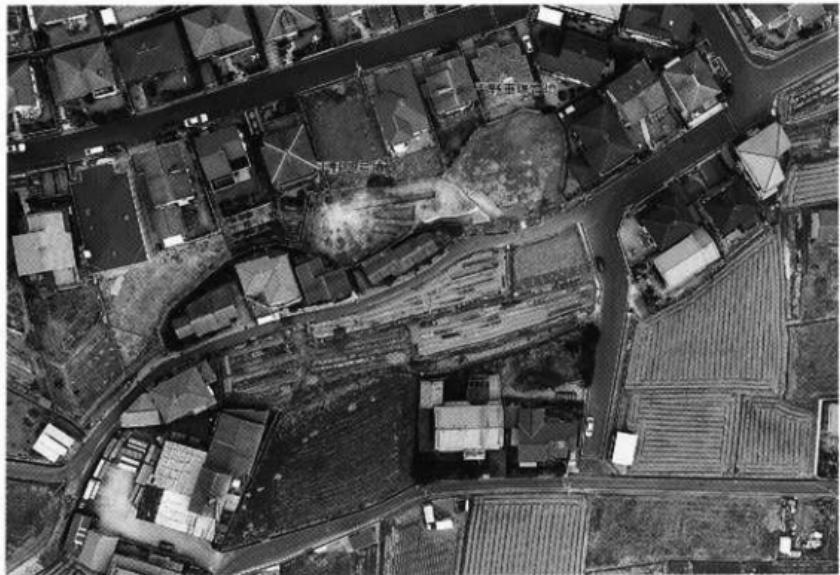
# 写 真 図 版



1. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺上空の航空写真（昭和38年撮影、上が北）



2. 平野車塚古墳・平野2号墳周辺上空の航空写真（平成12年撮影、上が北）



1. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真（上が北）



2. 平野車塚古墳・平野2号墳航空写真近景（上が北）



1. 平野車塚古墳  
平野2号墳  
航空写真  
(東から)



2. 平野車塚古墳  
平野2号墳  
航空写真  
(南から)



3. 平野車塚古墳  
墳頂部より  
平野2号墳・  
二上山を臨む  
(北東から)



1. 平野車塚古墳  
伐採前の状況  
(南から)



2. 平野車塚古墳  
伐採後の状況  
(南から)



3. 平野2号墳  
伐採後の状況  
(東から)



1. 平野2号墳  
完成状況  
(東から)



2. 平野2号墳墳丘  
プラス検出状況  
(東から)



3. 平野2号墳墳丘  
プラス検出状況  
(北東から)



1. 平野2号墳  
第3調査区墳丘  
縄部バラス集積  
箇所検出状況  
(東から)



2. 平野2号墳  
第3調査区墳丘  
縄部バラス・中  
世土器検出状況  
(東から)



3. 平野2号墳  
第3調査区墳丘  
縄部バラス・北  
壁土層堆積状況  
(南から)



1. 平野2号墳  
完掘状況  
(東から)



2. 平野2号墳  
墳丘東部盛土の状況  
(東から)



3. 平野2号墳  
丘頂部  
盛土の状況  
(東から)



1. 平野2号墳  
第1調査区南壁  
土層堆積状況  
(北東から)



2. 平野2号墳  
第1調査区南壁  
土層堆積状況  
墳丘盛土の状況  
(北東から)



3. 平野2号墳  
第2調査区  
墳丘南壁  
土層堆積状況  
(北から)



1. 平野2号墳  
第3調査区  
埴丘部北壁  
土層堆積状況  
(南から)



2. 平野2号墳  
第4調査区  
狭道検出状況  
(北東から)



3. 平野2号墳  
第4調査区  
狭道検出状況  
(東から)



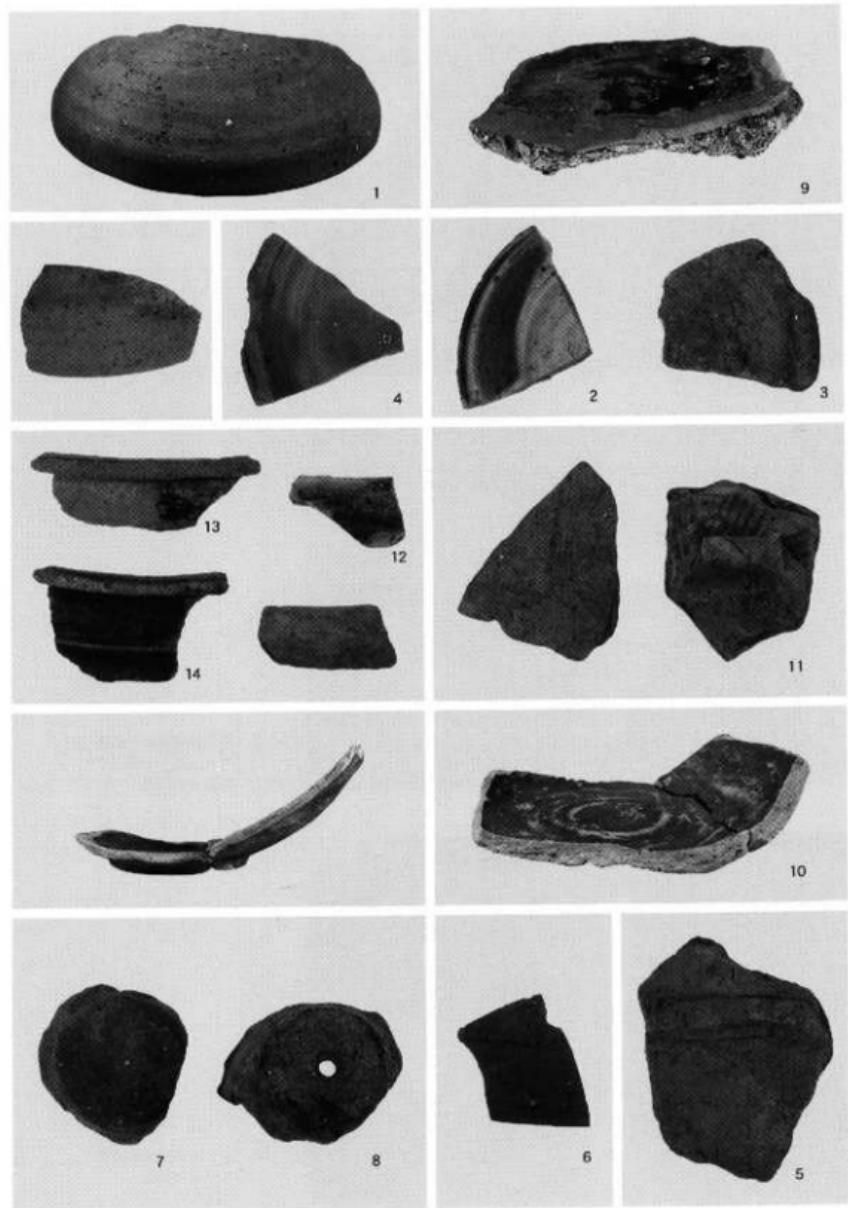
1. 平野 2 号 墳  
第 4 調査区西壁  
土層堆積状況  
(北東から)



2. 平野 2 号 墳  
第 4 調査区  
義道左側石  
検出状況  
(南西から)



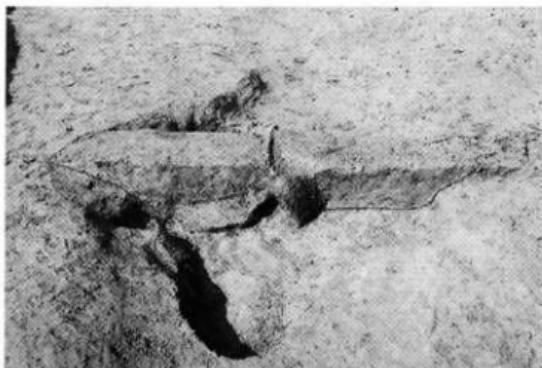
3. 平野 2 号 墳  
第 4 調査区  
義道右側上段  
側石検出状況  
(南から)



(番号は図9の遺物番号に対応する)



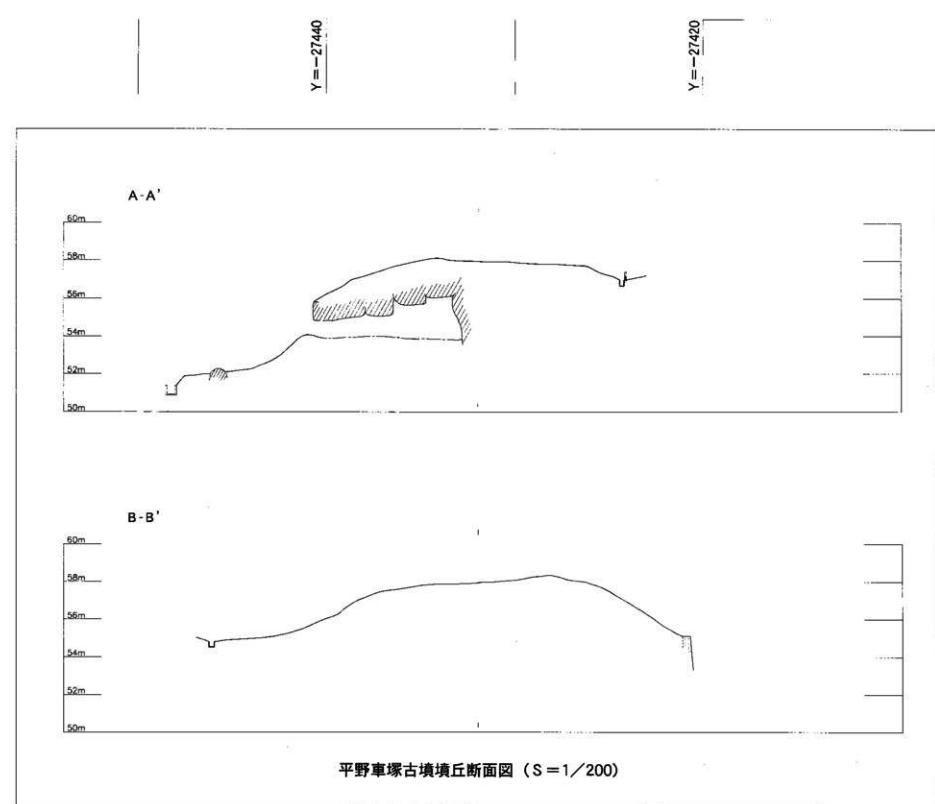
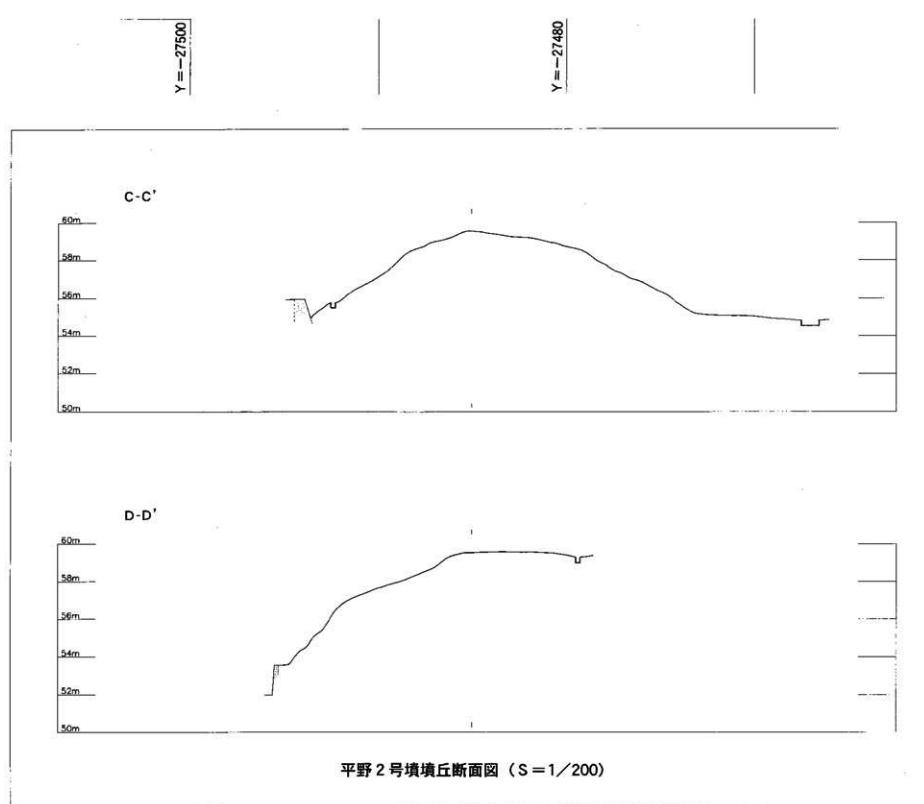
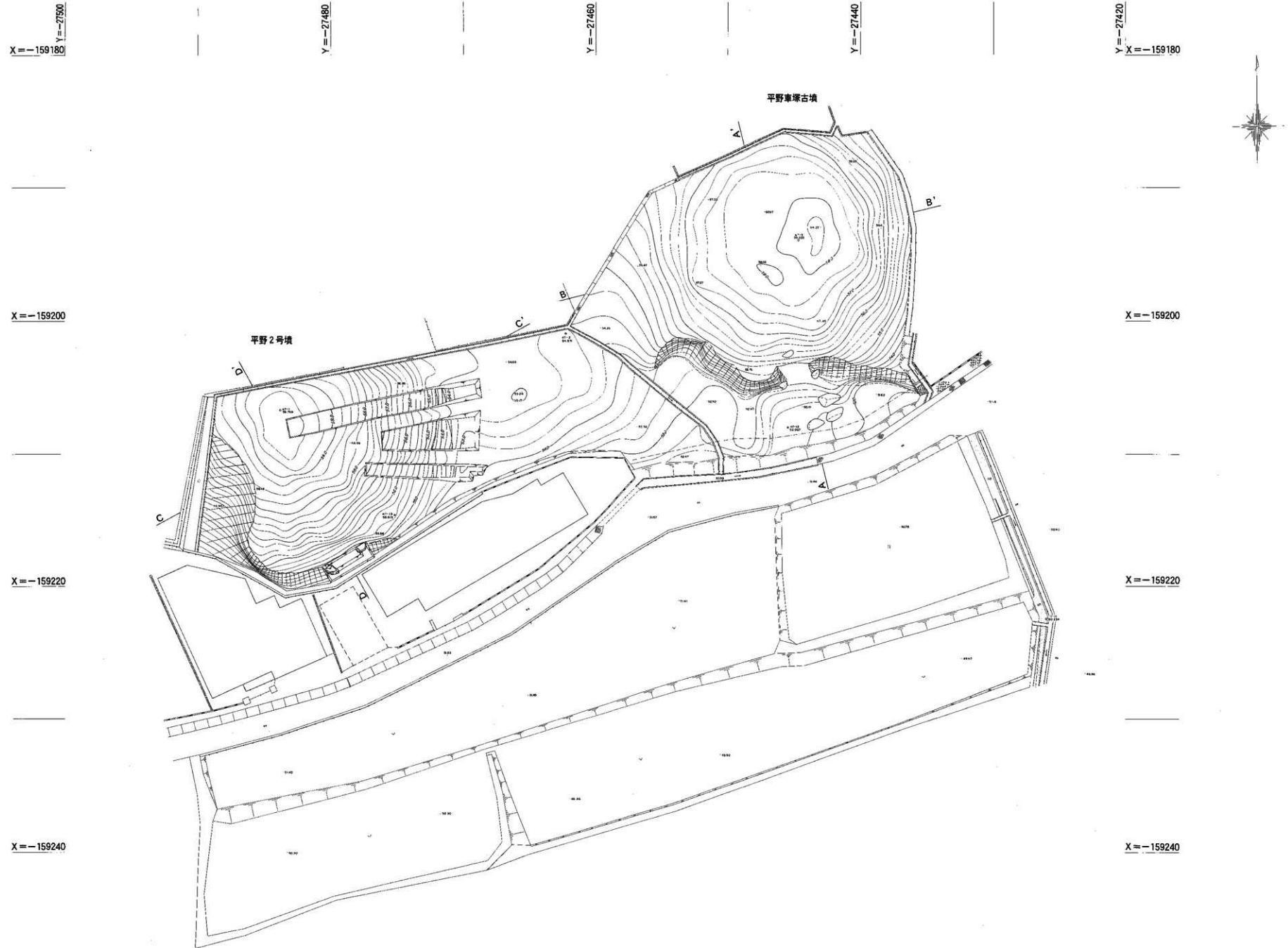
1. 狐井遺跡第18次調査  
調査区全景（西から）



2. 狐井遺跡第18次調査  
SK-01出土  
出土状況（南から）



3. 狐井遺跡第18次調査  
北壁地層断面  
(南西から)



別添図 平野車塚古墳・平野2号墳地形測量図 (S=1/200)

『香芝市埋蔵文化財発掘調査概報13』  
香芝市教育委員会・香芝市二上山博物館編

## 報告書抄録

|                |  |                   |                         |                              |      |   |                              |
|----------------|--|-------------------|-------------------------|------------------------------|------|---|------------------------------|
| ふりがな           | へいせいじゅういちねんとかしばしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう じゅうさん  |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 書名             | 平成11年度香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 13                      |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 副書名            |  |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 巻次             |  |                   |                         |                              |      |   |                              |
| シリーズ名          | 香芝市埋蔵文化財発掘調査概報                               |                   |                         |                              |      |   |                              |
| シリーズ番号         | 13   |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 編著者名           | 佐藤 良二（狐井遺跡第18次調査）、下大迫 幹洋（平野2号墳第1次調査）         |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 収集機関           | 香芝市二上山博物館                                    |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 所在地            | 〒639-0243 奈良県香芝市藤山1丁目17番17号                  |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 発行年月日          | 西暦2000（平成12）年3月31日                           |                   |                         |                              |      |   |                              |
| 所収遺跡名          | 所在地  | コード               |                         | 北緯                           | 東經   | 調査期間  | 調査面積                         |
|                |  | 市町村               | 遺跡番号                    | °°°                          | °°°  |   | 調査原因                         |
| 平野2号墳<br>第1次調査 | 奈良県<br>香芝市<br>平野<br>1043番地                   | 292109            | 88                      | 34度                          | 135度 | 19991111  | 100m <sup>2</sup>            |
|                |  |                   |                         | 33分                          | 42分  | 1   | 範囲確認<br>調査                   |
|                | 種別   | 主な時代              | 主な遺構                    | 主な遺物                         |      | 特記事項  |                              |
|                |  |                   |                         | 七輪器、須恵器、<br>石槍頭、<br>瓦器、瓦質土器等 |      | 木柵蓋により、平野2号墳から黄土部が検出され、復元推定直径26m、<br>高さ6.5mの円墳であることが判明したが、義造部の割石や天井石は中世<br>に抜き取られていることが確認された。 |                              |
| 所収遺跡名          | 所在地  | コード               |                         | 北緯                           | 東經   | 調査期間  | 調査面積                         |
|                |  | 市町村               | 遺跡番号                    | °°°                          | °°°  |   | 調査原因                         |
| 狐井遺跡<br>第18次調査 | 奈良県<br>香芝市<br>五位堂<br>498-4<br>503-3<br>504-5 | 292109            | 52                      | 34度                          | 135度 | 19990420  | 19.75m <sup>2</sup>          |
|                |  |                   |                         | 31分                          | 42分  | 1   | 自己用専<br>用住宅建<br>築に伴う<br>事前調査 |
|                | 種別   | 主な時代              | 主な遺構                    | 主な遺物                         |      | 特記事項  |                              |
|                |  |                   |                         | サヌカイト片                       |      |   |                              |
|                | 墓葬   | 绳文時代<br>1<br>鎌倉時代 | 上坑2基、<br>ビット2基、<br>溝2条等 |                              |      |   |                              |

---

香芝市埋蔵文化財発掘調査概報 13

—平成11年度—

2000(平成12)年3月31日

編集 香芝市二上山博物館  
〒639-0243 奈良県香芝市藤山1丁目17番17号  
TEL. 0745-77-1700 FAX. 0745-77-1601

発行 香芝市教育委員会  
〒639-0244 香芝市本町1397番地

印刷 堀内印刷株式会社  
奈良県大和高田市春日町1丁目9-10  
TEL. 0745-52-0557 FAX. 0745-23-2330

---